

別記様式

議 事 録

会議の名称	岩倉市地域福祉計画推進委員会
開催日時	平成 30 年 3 月 26 日 (月) 午後 1 時 30 分から午後 3 時まで
開催場所	市役所 7 階 第 2 委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	野口委員長、河村副委員長、山田委員、馬路委員、浅田委員、関戸八郎委員、山口委員、尾関委員 欠席委員：小笠原委員、関戸誠委員 説明者：健康福祉部長、福祉課長、福祉課統括主査、主任 岩倉市社会福祉協議会主幹、主任
会議の議題	・パブリックコメントの結果について ・第 2 期岩倉市地域福祉計画の承認について
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他 ()
会議に提出された資料の名称	・(資料 1) 第 4 回議事録 ・(資料 2) パブリックコメントの実施結果について ・(資料 3) 第 2 期岩倉市地域福祉計画 (案) ・(資料 4) 第 2 期岩倉市地域福祉計画・普及版 (案) ・(参考資料)
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0 人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

野口委員長よりあいさつがされた。

2 議事

議題（1）

第4回推進委員会の議事録が了承された。

議題（2）

パブリックコメントの結果について事務局から説明がされた。

委員長：パブリックコメントとして2名、5件が出されたということである。また庁内パブリックコメントを実施していただいた。後で計画書の報告でも説明するので、ここはよろしいか。庁内パブリックコメントは我々が知りえている行政用語と部局が使用している用語が若干違ったりしていることもあり、正確を期すということではよかったと思う。

議題（3）

第2期岩倉市地域福祉計画の承認について事務局から説明がされた。

委員長：2年間の策定業務にご意見等いただきありがとうございます。地域福祉計画は通常の行政計画と違って数字を出したり、実績を積んでいったものを評価するといったはっきりとしたレイアウトがない計画であるといえる。標語としては今より住みやすく、みんなが安心して納得して住み続けたいという思いをつなげて作っていく計画とも言え、事務局も試行錯誤があつて、かちかちつといかない部分は歯がゆい思いもあつたとは思いますが、とりあえず今回策定した第2期計画は、前回の第1期計画を踏まえたものとなっている。第1期計画は部会中心で課題解決という形をとってきた。市内全域で福祉計画を推進していくというイメージ戦略を定着させていこうということだったと思う。資料編73ページには3月の地域福祉推進フォーラムにて報告いただいた部会の活動について一部を掲載した。まちに出て市民と一緒に活動しているのを見てもらうには写真が一番わかりやすいということで示した。

第2期計画では、5つの校区で住民活動計画としてチャレンジしていこうという提案をしている。本編については、本日も承認いただきたい。

また、本編は資料編を入れるととても重いし、住民活動計画もとびとびになるため、せつかなので分かりやすいものを示そうと、別冊の普及版を検討した。前提として見開きとし、一小学校一ページにレイアウトし、最後に地域福祉計画の全容を入れてある。また、いざ作業していくときにいつどこで誰に何を、その時に費用はどれくらいか等が書き込めるような作業シートがあつたほうが良いという提案があり最終ページに掲載した。この普及版を2,000冊印刷する。足りない分は年度ごとに増刷して対応してほしい。普及版についても併せて承認をお願いしたい。

他に意見等はあるか。

事務局：1 ページに「アピタ」構内とあるが、文言を「商業施設」と修正したい。

尾関：本編、普及版ともに「各校区の住民活動計画」と、後段にまとめてある「住民活動計画一覧」の違いが、初見の人には分かりにくい。

委員長：この計画は、地域福祉計画と地域福祉活動計画の一体化計画である。これを住民活動計画とそれを支援する社会福祉協議会と行政の支援計画として策定しているのので、その旨の説明を加えることとする。また、ご指摘の部分については、「住民活動計画一覧」から「地域福祉計画一覧」と書き換えることとする。

他になければ、手直しなどは事務局に一任し、ご承認をお願いしたい。

委員：異議なし。

委員長：議題としては以上だが、せっかくお集まりなので、委員会のあり方や推進に向けてご意見を伺いたい。作って終わりではない。立ち上げてキックオフをしていかなければいけない。

尾関：各地区でやっていくとなると実際に動ける主体や人で受けるところがあるのか。作ったが魂入れずではいけないし、実際住んでいる者としては5年後10年後に自分自身の問題にはなってくる。

委員長：先ほどのパブリックコメントでもあった介護問題というのは地域住民の大きな関心事だと思われる。第7期の介護保険事業計画もスタートするので、そのあたりも含め横断的に対応していかないといけないだろう。

校区という小地域福祉計画にチャレンジしていくこととなるが、恐らく区長さんの出番も出てくると思うがいかがか。

浅田：校区でやっていくとなると、支会でやっていくことになるのかなとは感じている。結構パワーはいる。

馬路：期待されている。

委員長：3月3日の地域福祉推進フォーラムの参加者も熱心に参加されていたし、声掛けをしてキックオフをしていけば、そんなに一気に走り出さなくても、どこか一つ二つの校区が走り出すと負けていられないということもあるかもしれない。

山口：誰がやっていくんだろうという時点で自分はどうかという話でもある。校区ごとというの進めていきたいとは思う。

委員長：ここに掲げた課題は全部一遍にというわけにはいかないの、とにかく何かを始めるとあたり、それぞれ校区が一番取り組みやすい課題からスタートすることになる。計画ですから計画案なのでそうそう簡単には書けなかったし、皆さん意見を集約するとこのようになったが、これを実行していくには、どんな人たちに活躍してもらおうのか、地域の中で少しずつピックアップしていただくことになるかと思う。話は別だが、名古屋市の高年大学の監修をしている。地域で社会貢献する人を養成するのが趣旨でスタートしたが、勉強はするが地域活動に参加する人は少ないといわれている。でも逆に言うと6割くらいの方が地域でボランティア活動をやられている。そういう意味でいうと校区推進メンバーフォーラムなり学園なりをやってもいいか

もしれない。人材育成になる。市民からはやり方が分からない、どこへデビューすればよいか分からないという意見も出ていた。

関戸：旗振りをするのが大変であり、いかにして行くかという難しさが課題になるというのが岩倉市民の弱点である。

委員長：でも第1期計画の中で、大規模でなかったかもしれないが、地域に関わってくれた方が50から60人いらしたことは財産だと思う。地域が小さいからできるのか、小さいがゆえにいろいろ声かけることができるのか。ただ、残念なことにすべてはできなかった。一つは協力者団体と地域住民との関係はなかなか作れなかったことなど、私としては課題を抱えてはいた。

馬路：地域福祉の問題というのは第1期計画を通してやってきて、誰しもが感じていることを少しでも自分たちがコツコツやっていくのに意味がある。全体を順序を追ってやっていくのが本来だが、言うべくしてなかなか実行は難しいことが分かった。第2期計画は学校区で、顔なじみで集まって、地域でとらえる課題意識を整理したので、そういう意味ではやりやすいかなとは思っている。第1期計画では自分たちができるとしかできなかった。もう少し大きな議論も吹っ掛けたが、いざやろうとするときに自分たちのネットワークの少なさを感じ、協力体制や連携が今一步だったと感じつつ、やはり最後に頼りにする地域のリーダーに近づいていきかけたのが正直なところで、常に意識に区長があった。地域のリーダーである区長に課題を押し付けるのは申し訳ないが、市の課題を全体でとらえたとき、区長の力を借りないといけない。ただし、区長のなり手がいないという課題も含め、地域の課題は下りていくが、実行部隊が応えているかというところもそうとも言えず、地域のリーダーをカバーしてあげるやり方、入り口を切り開いてほしいという感じはする。区長の悩みを聞くことも多く、現場を見れば課題は分かるといわれる。課題を押し付けていく形で、第2期計画は動くが、地域のコミュニケーションが、住民レベルで取られ、その中のひとりが区長さんであればこの上ないこととしてやっていけばよい。そういう意味では支会活動や区長の寄り合いの場面はたくさんあるので、その場に日常的に課題をぶつけ合うということに慣れていけば、校区ごとのグループワークで出た問題の切り口は、例えば支会と合同会議をしていけば活発にやっていけるのではないかと期待している。

我々は、引き続き第1期計画の支援隊として頑張る。呼びかけがあればいつでもノウハウを出していきたい。

委員長：地域福祉推進フォーラムでは第1期計画の方々には卒業でなく、一つのステップであると申し上げた。重荷にならない程度、できることしかやらなかったと言われたがそれでよいと思う。上手な乗り切り方を教えてもらえるとよいが。

山田：5年間ご一緒させていただいた。最初は連絡、場の設定が大事だ。連絡を聞いてないとかが積もり、心が離れていくことが一番ダメだ。基礎の基礎を作り、顔見知りになり活動や会議をやるようになると、休んでいたけどどうしたのなど言えるようになるとしめたものだ。第1期計画の部会も最初のスタート時の人数は同じだったと思うが、楽しいということを感じるようになったら口コミで加入を進められた。民生委員や区長など立場はあるが、それを超えたいろんなことを計画したり調べたりしながら

ら、情が出てくると第2期計画もいいのではないかと考えている。

委員長：市外の住民として僭越だが、岩倉は立ち話ができるまちではないか。ぼったり出会ってしばらく話をして情報交換ができる範囲の地の利、文化、風度、材料があると感じている。井戸端会議なり、人と人とがすれ違ったときに1、2分立ち話して別れるようなまちである気がする。じゃあ、一日の30分くらい、1か月に1回くらい地域で会議をしましょう、ということを取り入れるような地域福祉計画として考えてきた。どうしても今回、地域課題というと解決しなければならない問題点みたいなとらえ方になってしまいがちだったのは残念だった。もっと岩倉の地域の中でこんなことができるんじゃないか、こんなことしたらもっと良い地域になるんじゃないかという意見が出てくるとよかった。それにはフランクに話ができる場があって、そこからそういうことが湧き上がってくるのではないか。そのための土台を作るのが第2期計画なのかと感じている。社協の役割も大きくなっているがいかがか。

河村：第1期計画は専門部会で取組をしてきたが、そういう人材やそこに刺激を受けた方がたくさんあった。このたび支会活動の中で校区ごとに取り組むという状況に変化しているわけだが、社協としても支会活動の今までの基本的なパターンが各地域であるが、例えば任期で変わられた民生委員さんなども新しく福祉に取り組む人材になってきて見えるので、そういう人も含めて支会活動を補強していかないといけないと感じている。支会活動の取組も目標が大きいので、これから大変だと思うが、取り組んでいかないといけないので、社協としても全面的にバックアップをしていかないといけないと思う。

委員長：皆さんご意見ありがとうございました。キックオフをどういう形で進めるか、事務局と相談してまた提案していくので、その時は協力をお願いします。

3 その他

特になし

委員長：他に無ければ、会議を終了する。

事務局より次期の委員推薦について説明がされた。

健康福祉部長によりあいさつがされた。